

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100807		
法人名	ティー・シー・プラネット株式会社		
事業所名	グループホーム聖丘		
所在地	島根県松江市上乃木2丁目29-11 (電話) 0852-22-2725		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町4番地		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(20年12月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月14日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤2人, 非常勤8人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300円		

(4) 利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	2名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	82歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江記念病院	河原歯科医院
---------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二階建ての民家をそのまま利用したホームで、利用者は家庭的な環境の中でゆったりと自分のペースで生活し、機能の改善した人もいる。職員は利用者を尊重し、入室時には必ずノックしたり丁寧な言葉で話しかけている。一人でタクシーに乗り趣味の会に出かける利用者があるが、関係者と連携を図り利用者の力を最大限活かす支援を行っている。管理者は課題を明確にしながら改善に取り組み、職員も目標を決めたり個別なレクリエーションを計画するようになりチームとしての職員集団もできつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「利用者本位の介護計画」は生活歴や特技を活かした内容に改善され、「計画的な研修」も年間計画を立て実施するようになった。他の課題についても目標を掲げながら改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票の書ける所を記入してもらい管理者がまとめた。短期間での取組みで職員はどう評価していいかわからない項目もあった。課題については全員で改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の状況や行事の報告を行い、出席者から質問や提案が出され活発に意見交換をしている。出された意見から、地域便りの発行の仕方が検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に積極的に話しかけ意見や要望を聞いている。不安や心配事などの相談を受けることも多い。家族の声を引き出すためにアンケートの実施が考えられている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧を回したり清掃活動などに参加している。ホーム行事「えんがわ祭り」に地域の人が参加したり、野菜の差し入れや声をかけてもらうことが増えるなど、地域との交流が広がってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を内容とした理念を掲げているが、補足として地域密着型としての具体的な内容を盛り込むことを検討している。	○	職員全員で話し合いを重ね、地域密着型としての内容が反映された理念になることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、新人研修や勉強会で説明し理念の共有に努めている。職員も理念を理解し日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃活動に参加したり、地域の人にホーム行事に参加してもらう中で声をかけてもらうことが多くなってきた。地域版のホーム通信を発行し回覧している。	○	運営推進会議などで地域の人から積極的に協力の申し込みがあるので、今後さらに交流の場が増えることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価票に記入し管理者がまとめた。短期間での取り組みで、職員はどう評価していいかわからない項目もあった。外部評価での課題は目標を決め改善に取り組んでいる。	○	ガイドブックを活用したり、評価を年間計画に位置付けるなど、時間をかけた取り組みを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事報告等を行い、出席者からは質問や提案が出され意見交換をしている。出された意見から、ホームの地域便りの発行の仕方を検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員と連携し利用者の生活状況の確認を行ったり、わからないことなど相談し助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に積極的にケア記録を開示し説明したり、定期的にホーム通信を発行し、個別に写真やコメントを付けている。健康状態は電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見を言いやすいように話しかけ、要望には迅速に対応している。家族から不安や心配事など相談を受けることも多い。アンケートの実施が考えられている。	○	運営推進会議に家族の出席を増やしたり、家族同士の交流の場を設けるなど、さらに家族の意見の引き出しに努め意見を運営に反映させていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行っていない。新人職員には研修を十分行い、利用者と過ごしてもらう時間を多く取り馴染みの関係を築いてから関わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し計画的な職員育成が始まったところである。外部研修は職員の希望を聞いたり声をかけ参加しているが、勤務の関係で参加できないこともある。	○	計画的な研修が始まったところなので、内部研修、外部研修共に積極的な取り組みになることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は小規模ケア連絡会や市のグループホーム部会に参加し研修や交流を行っている。職員間の交流は今後の課題になっている。	○	職員レベルでの同業者との交流や相互訪問を実施し、さらにサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者・家族に見学してもらい雰囲気を感してもらってからサービスを開始している。お試し入居も実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族という思いと一緒に活動し料理や慣習など教わっている。雨や風の音などに対する利用者の五感を大事にし、利用者の感じ方を共有することに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情、行動、態度などから思いの把握に努め、希望に沿うためにはどうしたらいいか日々話し合っている。外泊などを通し家族から情報を得ることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にセンター方式の記録の書けるところを書いてもらい、それをもとに情報を増やし、職員全員で話し合い計画を立てている。生活歴や特技を活かした内容に改善されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、管理者が職員に意見を聞き計画の見直しを行っている。必要時には随時見直しを行い、変更箇所はわかりやすいように朱書きしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けている。医療連携体制加算をとり日常的に利用者の健康管理を行ったり、趣味活動への参加、外泊など、希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い利用者・家族の納得のいくかかりつけ医の支援をしている。定期的に往診があり医師の助言を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や急変時にはかかりつけ医と相談し対応することを家族に話している。ホームとしての最大限の努力を考えているが、運営規定等の文書に整合性のないところがある。	○	利用者や家族の意向を尊重しながら、ホームも選択肢の一つであることを考慮した方針の検討と、文書類の統一が望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入室時は必ずノックをし声をかけている。トイレの誘導、介助時にもプライドを傷つけないよう細心の注意を払っている。職員は丁寧な言葉づかいを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や外出、好きなテレビを見るなど、利用者の希望を尊重し、利用者が自分のペースで生活することを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が相談して献立を決め、調理や盛り付け、片付けなど利用者の力を活かしながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声をかけながら利用者の希望を尊重した支援をしているが、自分で曜日を決定している利用者もあり回数として少ない人もある。	○	利用者にいつでも自由に入浴できることを話し、希望を引き出しながら支援されることを望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事作りや洗濯物干しなど日課として行っている。トランプやオセロゲームを楽しんだり、外出行事、趣味活動、個別のレクリエーションなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、利用者の希望に沿うよう支援し、外出を嫌がる人にも声かけを工夫し外気に触れる機会を作っている。専用車がないので外出時はタクシーを利用している。	○	ホーム用の専用車の検討をお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に入出入りすることが出来る。安全のために玄関チャイムや階段にセンサーが取り付けられている。利用者の外出時には同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に講習会や避難訓練を行い、運営推進会議で地域の人に協力を呼びかけている。二階からの避難方法は階段だけなので誘導をどうするか不安がある。	○	二階からの避難方法について対策を検討していただきたい。地域住民との合同訓練の実施も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録している。水分の取りにくい人にはホットレモンや紅茶など目先を変え工夫している。栄養士によるチェックも受けるようになった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をほとんど改装することなく、家具、装飾品などもそのまま使っているホームで家庭そのものの雰囲気である。こたつや花、干し柿など、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家の部屋をそのまま使用しているので間取りや広さはみな違うが、思い思いの家具や身の回り品、日記帳、趣味の本や道具などを持ち込み、その人らしさが感じられる居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。